

第2回盛岡市デジタル化によるまちづくり推進戦略 アドバイザーボード

戦略立案に向けた協議資料

2022年12月1日

目次

1. 本戦略骨子のリバイズ	… …	P2
(1) 前回会議でのご指摘事項	… …	P3
(2) 戦略目標・戦略コンセプト案	… …	P7
① 本戦略の骨子	… …	P8
② 戦略目標案	… …	P9
③ 戦略コンセプト案	… …	P11
④ コンセプト策定に至る背景	… …	P12
⑤ コンセプト案を踏まえた将来像（具体例）	… …	P13
2. 戦略骨子を踏まえた行動指針案	… …	P15
(1) 3つの視点の行動指針案	… …	P16
(2) 各視点の行動指針案に紐づいた解決方法	… …	P22
3. 市民・企業の意識・意見の取込み	… …	P23
(1) 市民ワークショップ実施報告	… …	P24
(2) 市民／企業向けアンケート実施概要	… …	P31
4. 庁内（組織・職員）の意識・意見の取込み	… …	P36
(1) 庁内アンケートの結果報告	… …	P37
(2) 庁内ヒアリングの結果報告	… …	P39
5. 【参考】岩手県DX推進計画（素案）	… …	P41
• APPENDIX	… …	P44

1. 本戦略骨子のリバイズ

(1) 前回会議でのご指摘事項

前回会議での主なご指摘事項（サマリー）

主なご指摘内容（議事録より一部抜粋）

戦略の骨子について

- 戦略の中心となるコンセプトを設けて、「市民・経済・まちづくり」の各観点から将来像を整理すべき
- 既存のものを取り入れながら、盛岡の良いものを伸ばしていく、すでにあるものをより魅力的にしていきたいという視点を設けて整理すべき
- 盛岡におけるデジタル化の必要性をきちんと伝えるべき

具体的な事業案について

- コンセプトを中心に「市民・経済・まちづくり」の各観点から事業案ベースにて課題の克服方法や良さ・長所の成長方法を整理すべき
- 盛岡特有の魅力や競争力をつくることを想定した事業立案の優先度が必要
- IT人材が流出していかないような、誘致・育成方法について検討すべき

市民や庁内の意識・意見について

- 盛岡市の課題として発現しているファクトに対して、デジタルでどう解決できるのかを（庁内職員に）ぜひ聞いていただきたい
- どういう世代の人がどういう認識を持っているか、アンケート調査などでしっかり把握してもらいたい

ファクトデータについて

- 市外（県外）流出の理由について、その要因をわかる範囲でよいのでファクトベースでの整理が必要
- サービス産業における盛岡の特徴や、収入の部分、就職率の部分、競争力の部分等のファクトがほしい

その他

- 環境、カーボンニュートラル、エネルギーまで目線を広げたうえで、盛岡市の地域経済とまちづくりに対してDXでどう貢献していくのかを今後、検討していくことが求められる
- 盛岡ならではの新しい産業ができればよいのではないか

【参考】ご指摘事項一覧（1/2）

#	発言文（議事録から抜粋）	議事録 記録箇所
1	盛岡市の課題として発現しているファクトに対して、デジタルでどう解決できるのかをぜひ聞いていただきたいです。おそらく現場の方々に、何らかのアイデアがあるものと思いますので、それを吸い上げていくようなアンケートをお考えいただけたら良いかと	p.2
2	全体の骨格に関しては、皆様の意見を伺いながらになると思いますが、この3つのテーマでいくのか、私個人としては、もう1~2つ項目を増やしても良い気がしています	p.3
3	どこかひとつの軸を設けたときに、それぞれの局面が連環していくイメージを盛岡の市民の視点や企業の視点で示してみる	p.3
4	全分野の事業を平たく進めすぎた結果、「盛岡のデジタル化ってなんだっけ?」「よその市町村と一緒にだね」となることを懸念しています	p.3
5	盛岡市においてもデジタル化の必要性があることをしっかり伝えていく必要がある	p.3
6	地元企業のデジタル化を戦略の中にどれだけ具体的に示していけるか	p.3
7	戦略における骨子の①②③は、市民の生活に通じる部分もあると思うので、ここをもう少し解像度を高めていただければと思います	p.4
8	20代女性の転出理由については、プル・プッシュの要因どちらもあると思います。本当は、この職種で盛岡働きたいけど、何かがないから外に行くのか、そもそも職種自体が仙台や東京、海外にあるから出るのか、そのあたりについてもなにかのファクトがほしい	p.4
9	サービス業における盛岡の特徴や、収入の部分、就職率の部分、競争力の部分等のファクトがほしい	p.4
10	岩手県の中でも盛岡を中心にソフトウェアの開発会社が多いのですが、集積しているようで、実は企業同士がうまく連携していないので、外から見た場合に事業が大きく見えません。したがって、それを解決する仕掛けも重要	p.4
11	さらには、滝沢市と盛岡市の連携も視野に入れたいと考えており、そういう体制ができると若い人は残ると思いますので、そういった点に力を入れていただきたい	p.5
12	（盛岡の）良いところである「素朴さ」、「素直さ」、「人間性」などをアピールして、インバウンドなり観光客なりを集客することを考えてみたら良いのかなと思います	p.5
13	全体の骨格については、やはり、中心となるコンセプトが何かあった方がいい	p.6
14	盛岡市さんも2050年のカーボンニュートラル行動宣言を作られていると思います。2050年をゴールにしたものと、今回の5年計画をどう位置づけていくか	p.6
15	環境、カーボンニュートラル、エネルギーみたいなところまで目線を少し広げたいので、盛岡市の地域経済とまちづくりが、それにDXでどう貢献していくのかを考えることが良いのかと思います	p.6

※ 第1回外部有識者会議議事録より抜粋

【参考】ご指摘事項一覧（2/2）

#	発言文（議事録から抜粋）	議事録 記録箇所
16	戦略目標をどこに置くか	p.7
17	それぞれの目線を変えて、まちのあるべき社会像を示してみる	p.7
18	リモートを含めてデジタルになっていく中で、距離をどういうふうに克服していくかというところでもあると思うので、そのあたりは各論のところで議論できれば	p.7
19	アンケート調査でも、どういう世代の人がどういう認識を持っているか、というファクトをしっかり把握してもらいたい	p.7
20	論じている先の長い視点も実は市民の生活に貢献するものなんですよ、ということをうまく伝えたい	p.7
21	利便性というか、例えばお年寄りの代わりに民生委員が申請等を代行してくれるだけでも大分違ってきたりもすると思いますけれども、そのあたりの意識とか、実態についても聞きたい	p.7
22	マイナンバーの実態、何が抵抗の種になっているんでしょうか	p.7
23	既存のものを取り入れながらいいものは伸ばしていく、すでにあるものをより魅力的にという観点	p.7
24	盛岡市として、公共交通で共通に使えるような基盤があると良いですね。自動運転のバスとかもあって、高齢者にも非常に優しい町だよって言うふうに言われるとか。	p.8
25	2つ3つ（の取組やサービス）を組み合わせた形で（事業を）推進してくというのを大前提にする必要がある	p.10
26	盛岡ならではの新しい産業ができればと思う	p.10
27	IT企業が地域に参入してきても、それを地域で受け止められずに結局流出してしまったら元の木阿弥になってしまうため、人材を誘致していく、育成していくところも含めて、その戦略はまた次回の検討課題にしていきたいです	p.10

※ 第1回外部有識者会議議事録より抜粋

(2) 戦略目標・戦略コンセプト案

① 本戦略の骨子案（第1回会議を踏まえ修正）

長期

↑
5
年
間
計
画
期
間
↓

短期

戦略コンセプト案

デジタル化推進によって誇れる地元をみんなで育てていく
コツコツと盛岡の良さを紡いで伸ばす

戦略目標案

① 市民の生活

- 地域の市民・企業の誰もがデジタル恩恵を享受
 - ・ 市民一人ひとりにデジタル化による恩恵が広く行き渡り、よりよい“盛岡らしい”暮らしが実現されている

② 地域の経済

- 地域のあらゆる産業がデジタル推進を起点に再活性化
 - ・ 盛岡にある資源・資産が活用され、地域で育ててきた“盛岡らしさ”を残したまま、新たな技術・知見を活用し、デジタルの力で地域経済の成長・発展が実現されている

③ まちづくり・文化

- 地域の魅力が掘り起こされ、安心安全な住み続けたいまち
 - ・ デジタル化を通じて盛岡が抱える課題を解決し、今ある文化を守りながら、新たな“盛岡らしさ”を創造して持続可能な社会が実現されている

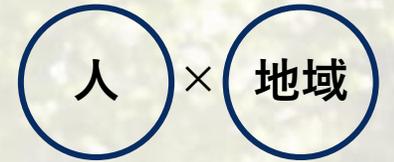
行動指針案

- ① やさしいデジタル化を目指す
 - ・ 高齢者も子どもも障がい者も置き去りにせず、デジタル格差を解消する
- ② 生活に根差したデジタル化を目指す
 - ・ 盛岡市の良さや課題を踏まえた上で、市民全員が恩恵を受けられる、“成果につながるデジタル化”を推進する
- ③ 生涯にわたって便利なまちを目指す
 - ・ 独身・子育て・リタイア世帯のニーズを満たし、ライフステージを通して安心・安全・便利に暮らせるまちを実現する

- ① 地域資源を活かした経済発展を目指す
 - ・ 盛岡の良質な資源とデジタル化を掛け合わせ、高付加価値なサービスを創出する
- ② 地元企業の持続・発展を目指す
 - ・ デジタル化推進による地元企業の業務効率化・生産性向上を実現し、労働者不足問題等を解消する
- ③ 人・技術・知見が集まるまちを目指す
 - ・ 市内外や首都圏から、特にデジタル技術に関する高いスキルを持った企業・人材が集まる仕組みを作る

- ① 持続的かつ革新的な地域発展を目指す
 - ・ 歴史的町並みや文化など、盛岡らしさを残しながらも、新しい技術・知見を取り入れ、更に価値を高めていく
- ② 安定したインフラ環境の提供を目指す
 - ・ これからも便利に暮らすことができるよう都市インフラ機能を強化する
- ③ 市内外の多くの人がつながるまちを目指す
 - ・ デジタル技術を活用して盛岡の魅力を積極的・効果的に打ち出し、関係人口を増加させる

② 戦略コンセプト案



Quality優位案

デジタル化推進によって誇れる地元をみんなで育てていく

コツコツと盛岡の良さを紡いで伸ばす

盛岡には、歴史・文化・自然や人情といった過去、脈々と培ってきた誇れる豊かな地域資源がある。そんな、地元（盛岡）にこれからもずっと住み続けていきたい。「人情的」、「真面目」、「コツコツ」といった盛岡に住まう人々の気質にあわせて、一見、難しそうなデジタル化推進も謙虚にコツコツ自分たちで協力し合いながら1つずつ成功させていく。

【参考】その他の戦略コンセプト案

戦略コンセプト案②：Cost優位

デジ田対応

デジタルの力を活用して社会課題を解決する

分野横断的な支援を通じて 社会課題の解決と魅力向上を図る

地域活性化を図るため、“地方に仕事をつくる”、“人の流れをつくる”、“結婚・出産・子育ての希望を叶える”、“魅力的な地域をつくる”の4つに重点をおいて分野横断的なデジタル化推進を実施していく。

戦略コンセプト案③：Delivery優位

スピード対応

社会課題をデジタル活用により迅速に解決する

ファスト・チャレンジ

地方衰退を止め、活性化を図るためにはより迅速な課題解決と魅力向上が必要。アジャイル型の事業実施により、社会課題の解決と地域の魅力向上スピードを高速化して解決を目指す。

QCDの観点から3案を検討した結果、
地域への浸透のしやすさ、地域課題・長所との整合性、実行の容易性の3点より、
『Quality優位』の戦略コンセプト案（前頁）を採用することとした

③ コンセプト案の策定に至る背景

- 国内における経済状況やデジタル関連の動きと地域（盛岡）の特性からコンセプト案を創出
- 地域特性を踏まえて地域の良さをスモールサクセス・クイックヒットにて、しっかりと地域の満足度を得ながら伸ばすことで、地域における課題解決につなげていく方針

国内事情

- 日本経済の長引く低迷（向上しない国内の平均賃金）
- 新産業（デジタル系）における国内企業の乗り遅れ（30年前との時価総額ランキングの様変わり）
- 都市部と地方との経済格差の拡大
- 全国的な人口減少・少子高齢化に加え、都市部への人口一極集中の加速（特に、地方における働き手世代の流出）
- 新型コロナウイルス感染症拡大を契機とした世界的なデジタル化の加速
- デジタル庁の発足やデジタル田園都市国家構想といった国全体としてのデジタル化支援体制が構築推進

地域（盛岡）の特性

- 地方自治体が抱える課題に直面（少子高齢化、働き手世代の流出、結婚・出産数の減少、地域産業の停滞）
- 地域経済を支える基幹産業の不足しており、地域内の雇用状況が不安定な状況
- 優秀な若手（国公立大学生など）の域外流出の増加
- 歴史・文化・自然といった優良コンテンツをうまくアピールできていない（新型コロナウイルス感染症拡大によるインバウンド低下）
- 地元住民による地元愛（人情、文化、地域資源など）
- 地元の有望スタートアップ企業の誕生（ヘラルボニー等）

コンセプト案

コツコツと盛岡の良さを紡いで伸ばす

→デジタル化推進によって誇れる地元をみんなで育てていく

④ コンセプト案を踏まえた将来像（具体例）

- 「市民の生活」、「地域の経済」、「まちづくり」の3つの視点による具体的な将来像を想定
- 盛岡の良さをデジタル化推進により伸ばしていくことで、それぞれの視点における課題解決を進めていく



- 生活におけるデジタル実装（申請、決済、移動等）が進み、年代を問わずその恩恵を受けることができ、市民のQOLが向上している
- 地域によるデジタルリテラシー対策が進み、情報格差なくやさしいデジタル社会が実現されている
- 専用サービスやアプリにより、子育てや介護が必要な家庭の時間的負担等が軽減されている

- 市内企業の必要なデジタル化推進により高い生産性が担保され、従業員のQOLが向上している
- 市内企業のデジタル実装により県内外から多様なバックグラウンドを持つ人材や技術・知見が呼び込まれ、継続的な地域の経済成長が起きている
- Web3等の最新テクノロジーサービスが推進される状況（各種優遇措置など）となり、新規産業のチャレンジ拠点に



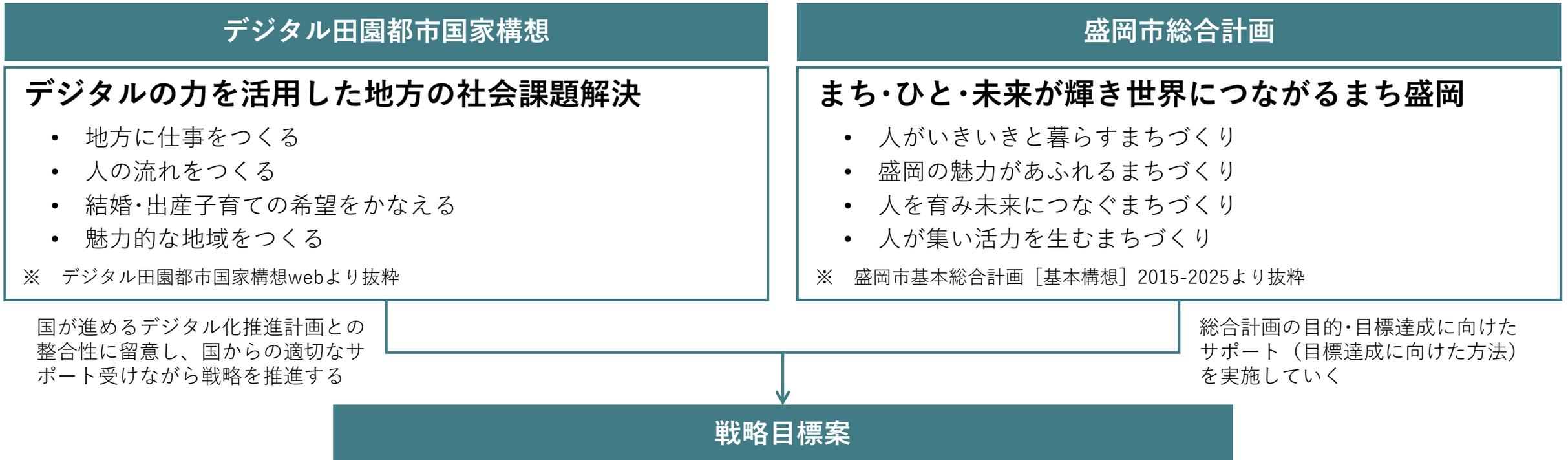
コツコツと
盛岡の良さを
紡いで伸ばす



- ビッグデータ活用による災害予測や防犯対策が整備され、安心・安全な社会が実現している
- 歴史ある町家街を活かしたワーケーションが推進され、デジタル人材や起業家の拠点に
- 地域の魅力（自然、歴史、文化等）がデジタルマーケティングにより全国、世界に発信され、観光客や移住者が増加

⑤ 戦略目標案

- 上位概念となる“デジタル田園都市国家構想”および“盛岡市総合計画”との関係より、本戦略における戦略目標案を「地域の市民・企業の誰もがデジタル恩恵を享受」、「地域のあらゆる産業がデジタル推進を起点に再活性化」、「地域の魅力が掘り起こされ、安心安全な住み続けたいまち」に仮設定



- 地域の市民・企業の誰もがデジタル恩恵を享受
- 地域のあらゆる産業がデジタル推進を起点に再活性化
- 地域の魅力が掘り起こされ、安心安全な住み続けたいまち

【参考】 戦略策定の目的

前回資料再掲

目的

- 本戦略の策定後、産学官の連携により、産業・交通・観光・防災・社会福祉・教育等の盛岡市が抱える課題解決と、歴史・自然・祭り・スポーツ・文化・飲食等の盛岡市が保有する資源・資産の成長・発展をデジタル実装を通じて実現し、地方創生を図りながら持続可能な経済社会の実現を目指します。



産業	交通	観光
盛岡が抱える各種課題をデジタルで解決		
防災	社会福祉	教育

歴史	自然	祭り
盛岡が保有する資源・資産をデジタルで成長・発展		
スポーツ	文化	飲食

目指す姿の実現



2. 戦略骨子を踏まえた行動指針案

(1) 3つの視点の行動指針案

※ 3つの視点の課題⇔行動指針案⇔解決方法の一覧は、
別紙「【資料02】戦略骨子を踏まえた行動指針案」を参照ください

全体構成（戦略骨子～戦略の実施方針）

- 本戦略は、大きく“戦略骨子”と“戦略の実施方針”に分けて体系的に取りまとめ、全体の整合性・関係性に留意して戦略策定を実施していく

戦略骨子

戦略コンセプト案

- コツコツと盛岡の良さを紡いで伸ばす
→ デジタル化推進によって誇れる地元をみんなで育てていく

戦略目標案

- 地域の市民・企業の誰もがデジタル恩恵を享受
- 地域のあらゆる産業がデジタル推進を起点に再活性化
- 地域の魅力が掘り起こされ、安心安全な住み続けたいまち

視点案

- 盛岡市総合計画の基本目標をベースに「市民の生活」、「地域の経済」、「まちづくり」の3つの視点案を設定

戦略の実施方針

現状・課題

- 3つの視点案それぞれにおける盛岡市の現状や課題をファクトデータや庁内ヒアリングおよびアンケートや市民WSにおける生の声から具体例ベースで整理

行動指針案

- 3つの視点案の現状や課題を踏まえ、それぞれ戦略目標案を達成するための視点目標と行動指針案を設定

解決方法案

- 行動指針案それぞれに対し、デジタル可推進による解決方法案を設定

具体事業

- これまでの戦略骨子および戦略実施方針に基づき、デジタルまちづくり推進WGにて具体事業を立案し、実行していく

3つの視点案の分類とそれぞれの課題

- 「市民の生活」「地域の経済」「まちづくり」の視点にて、対応する領域を分類し主な課題を具体例ベースにて整理
- 地域性（積雪寒冷地）や、労働生産性が低い産業構造等に起因する、地域が抱える課題解決を目指す

	主な分類	現状の主な課題（具体例ベース）
 <p>市民の生活</p>	社会インフラ：ソフト	<ul style="list-style-type: none"> 交通：冬期は積雪の影響からクルマ移動の支障発生や、公共交通機関の遅延等に繋がったりする 医療・福祉：少子高齢化により、高齢者を含んだ健康維持対応や子ども・高齢者の見守りが必要
	防災・安全（防犯）	<ul style="list-style-type: none"> 防災：近年のゲリラ豪雨等の異常気象が増える中、市街地を流れる河川氾濫等の災害発生が懸念される 安全：自家用車利用が多い地域であり、対人（通勤・通学時）や冬期事故の発生等が懸念される
	結婚・子育て・教育	<ul style="list-style-type: none"> 結婚・出産：若年層の女性の市外転出が多く、婚姻数・出産数が減少し続けている 教育：教育現場のデジタル化の遅れや、新学習指導要領に対応した更なる小中学生の思考力向上が必要
 <p>地域の経済</p>	経済（企業）	<ul style="list-style-type: none"> 付加価値を高めにくい業種（第3次産業の飲食・宿泊サービス業や医療・福祉等）の割合が高く、労働生産性が低い傾向にあり、所得も全国平均に比べて低い
	職場環境	<ul style="list-style-type: none"> 紙ベースの業務が多い、デジタルツールに不慣れ等の理由でリモートワークの導入や業務効率化が進まず、ワークライフバランスのとれた多様な働き方を実現することができない
	人材（働き手）	<ul style="list-style-type: none"> 所得や労働生産性が低い等、特に市内で高等教育を受けた若者にとって魅力的な企業が少なく、若者層の転出が突出して多い
 <p>まちづくり</p>	歴史・文化	<ul style="list-style-type: none"> 歴史遺産（町家等）の老朽化が進んでいるほか、有効活用を進められていない
	地域の魅力発信	<ul style="list-style-type: none"> 地域の魅力を市外に積極的かつ効果的にアピールすることができていない
	社会インフラ：ハード	<ul style="list-style-type: none"> 建造物や道路等のインフラ老朽化が進んでおり、維持管理・保全といった対応が必要 積雪寒冷地のため、冬期の除雪・排雪といった対応も必要になっている

行動指針案：市民の生活

戦略 目標

地域の市民・企業の誰もがデジタル恩恵を享受

- ・市民一人ひとりにデジタル化による恩恵が広く行き渡り、よりよい“盛岡らしい”暮らしが実現されている

1

やさしいデジタル化を目指す

- ▶ 高齢者も子どもも障がい者も置き去りにせず、デジタル格差を解消する

2

生活に根差したデジタル化を目指す

- ▶ 盛岡市の良さや課題を踏まえた上で、市民全員が恩恵を受けられる、“成果につながるデジタル化”を推進する

3

生涯にわたって便利なまちを目指す

- ▶ 独身・子育て・リタイア世帯のニーズを満たし、ライフステージを通して安心・安全・便利に暮らせるまちを実現する



行動指針案：地域の経済

戦略 目標

地域のあらゆる産業がデジタル推進を起点に再活性化

- 盛岡にある資源・資産が活用され、地域で育ててきた“盛岡らしさ”を残したまま、新たな技術・知見を活用し、デジタルの力で地域経済の成長・発展が実現されている

1

地域資源を活かした経済発展を目指す

- 盛岡の良質な資源とデジタル化を掛け合わせ、高付加価値なサービスを創出する

2

地元企業の持続・発展を目指す

- デジタル化推進による地元企業の業務効率化・生産性向上を実現し、労働者不足問題等を解消する

3

人・技術・知見が集まるまちを目指す

- 市内外や首都圏から、特にデジタル技術に関する高いスキルを持った企業・人材が集まる仕組みを作る



行動指針案：まちづくり

戦略 目標

地域の魅力が掘り起こされ、安心安全な住み続けたいまち

- デジタル化を通じて盛岡が抱える課題を解決し、今ある文化を守りながら、新たな“盛岡らしさ”を創造して持続可能な社会が実現されている

1

持続的かつ革新的な地域発展を目指す

- ▶ 歴史的町並みや文化など、盛岡らしさを残しながらも、新しい技術・知見を取り入れ、更に価値を高めていく

2

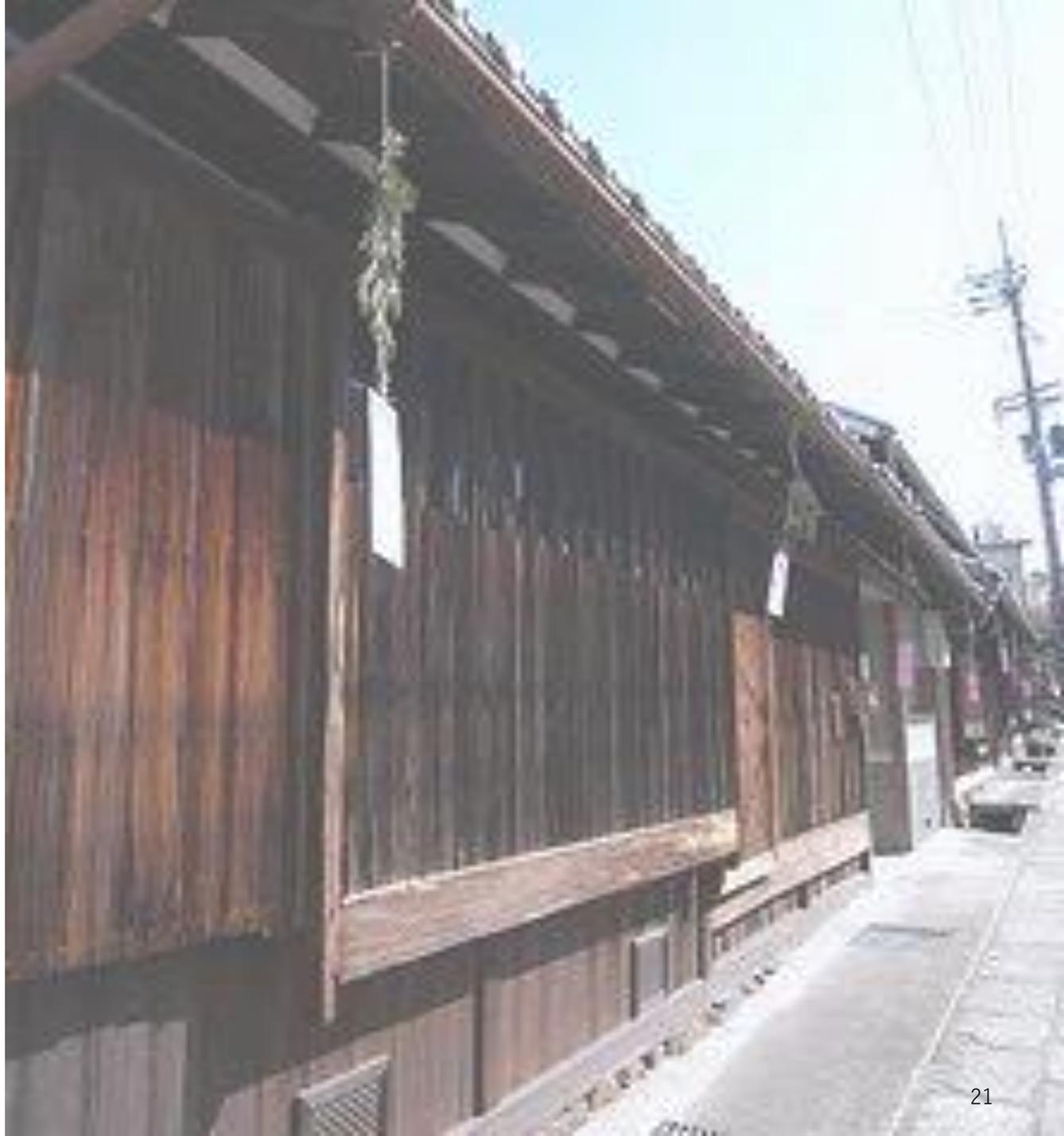
安定したインフラ環境の提供を目指す

- ▶ これからも便利に暮らすことができるよう都市インフラ機能を強化する

3

市内外の多くの人がつながるまちを目指す

- ▶ デジタル技術を活用して盛岡の魅力を積極的・効果的に打ち出し、関係人口を増加させる



(2) 各視点の行動指針案に紐づいた解決方法

各視点の行動指針案に紐づいた解決方法案

- 市民生活に関しては、市民ニーズや盛岡の課題を十分に把握し、成果につながる事業を優先的に実施するとともに、デジタル格差の解消に努める
- 地域経済に関しては、地元企業の足もとの経営課題を解消した後、市内外の人材と協働し高付加価値産業を創出する
- まちづくりに関しては、都市インフラ機能を強化しつつ、文化・歴史的価値を高めるとともに、魅力を発信する

行動指針案

(デジタルを活用した) 解決方法案



市民の生活

- ① やさしいデジタル化を目指す
- ② 生活に根差したデジタル化を目指す
- ③ 生涯にわたって便利なまちを目指す

- ✓ 市民ニーズが大きい、または恩恵を享受できる市民の数が多い分野の事業を実施
- ✓ デジタル格差を解消するため、デジタル端末の配布や利用方法の講座開催等を実施



地域の経済

- ① 地域資源を活かした経済発展を目指す
- ② 地元企業の持続・発展を目指す
- ③ 人・技術・知見が集まるまちを目指す

- ✓ 地元企業の足もとの経営課題（労働生産性や人材不足等）をデジタル活用により解消
- ✓ 市内外から集まる高いデジタル関連スキルを持った企業・人材と協業し、伝統産業/新規産業問わずに高付加価値サービス・産業を創出



まちづくり

- ① 持続的かつ革新的な地域発展を目指す
- ② 安定したインフラ環境の提供を目指す
- ③ 市内外の多くの人がつながるまちを目指す

- ✓ 市民生活の利便性を高めるため、都市インフラを強化
- ✓ 盛岡の文化・歴史的価値を高める事業を実施
- ✓ 市内外に向けた魅力発信と関係人口のコミュニティ形成を実施

3. 市民・企業の意識・意見の取込み

(1) 市民ワークショップ実施報告

市民向けワークショップ実施結果

- 10～70代まで計11名の市民の方々に参加いただいたWS結果として「盛岡市の良さ」を挙げる声が年代を問わず聞かれた
- また、抜本的な変革ではなく、目前の課題（交通や積雪、子育て・介護等）を解決しつつ、盛岡の良さを活かしていってほしいとの意見が多く聞かれた

総論

- 年代問わず、岩手山や川など豊かな自然を盛岡市の良いところとして挙げる声が多く、他にも食や祭りなどの文化に対して良さを感
じている
- 交通の不便さや娯楽施設の少なさなど地方に共通する課題とともに、東北地方ならではの雪に関する課題感が多い
- 盛岡の良さを活かして若者が残りたいと思うまち、そして子どもからお年寄りまですべての市民が安全に暮らせるまちを目指したら
よいのではないかという意見が挙がった

盛岡市の現状・課題

- 人・食・自然・文化の観点で盛岡の良さを感じている市民が多い
- 公共交通機関の不便さや若者の流出、娯楽施設の少なさなど地方に共通してみられるような課題に関するグループ間意見があがった
- 降雪地ならではの課題感を持つ市民が多い
- 除雪そのものに関する悩みのほか、そこから派生して朝夕の渋滞や雪解けによる道路の劣化に困るという声や、冬場に遊べる施設が欲しいという声も聞かれた

目指すべき盛岡市の姿

- 労働や子育てなど複数分野の環境を整えることで「若者が残るまち」を目指すべき姿として挙げる声が多い
- 若者だけでなく高齢者にとっても便利で安全なまちにしたいなど、デジタル化の恩恵が幅広くいきわたってほしいという市民の思いが大きい
- 盛岡の魅力を市民が感じながら暮らすことはもちろん、その良さを市外にも発信できるまちを目指したいという、長所をいかしたブランディングや集客に積極的な意見もあがった

叶えてほしいサービス・期待したい施策

- 学生目線では、移動手段の要となるバスや電車の利便性を高めてほしいという声や電子決済サービス導入店舗の拡大を期待する意見があがった
- 社会人目線では、特に若者の雇用拡大や、自身の働き方の刷新を望むようなアイデアが比較的多くみられた
- 家族目線では、子どもの教育や医療サービスの充実、お年寄りの見守りなどに関してデジタル推進を期待できるのではないかという意見があがった

【参考】実施概要および参加者

- 11/19（土）に計11名の盛岡市民のみなさま（10代～70代と幅広い層の方々）にご参加いただきました
- 先進事例等を紹介した後、3つのグループに分かれ、テーマ（デジタルを活用した盛岡の未来の理想社会を考える）のもと、3ステップにてワークショップを実施

実施概要

【開催日時】

- 2022年11月19日（土） 13:30～15:30

【開催場所】

- パルクアベニュー・カワトクcube-II地下1階
「盛岡という星でBASE STATION」

【内容】

1. 盛岡市のデジタル化推進に向けた取組の現状やデジタル先進都市事例の紹介
2. WS（テーマ：デジタルを活用した盛岡の未来の理想社会を考える）
 - STEP1：“盛岡の現状と課題”を考えよう
 - STEP2：“目指すべき盛岡市の姿”を考えよう
 - STEP3：“デジタル推進で叶えてほしいサービスと期待したい施策”を考えよう

参加者

#	グループ	氏名※	年齢	所属
1	グループ1	Oさん	19	専門学校生
2		Sさん	19	専門学校生
3		Fさん（当日不参加）	18	専門学校生
4		Nさん	18	専門学校生
5	グループ2	Oさん	71	一般社員
6		Tさん	-	福祉系協議会
7		Tさん	-	商工会議所青年部
8		Tさん	-	一般社員
9	グループ3	Aさん	58	一般社員
10		Kさん	47	一般社員
11		Fさん	-	教育系連合会
12		Kさん	-	交通系社員

※ 個人情報保護の観点より、氏名非公表としています

【参考】 当日写真

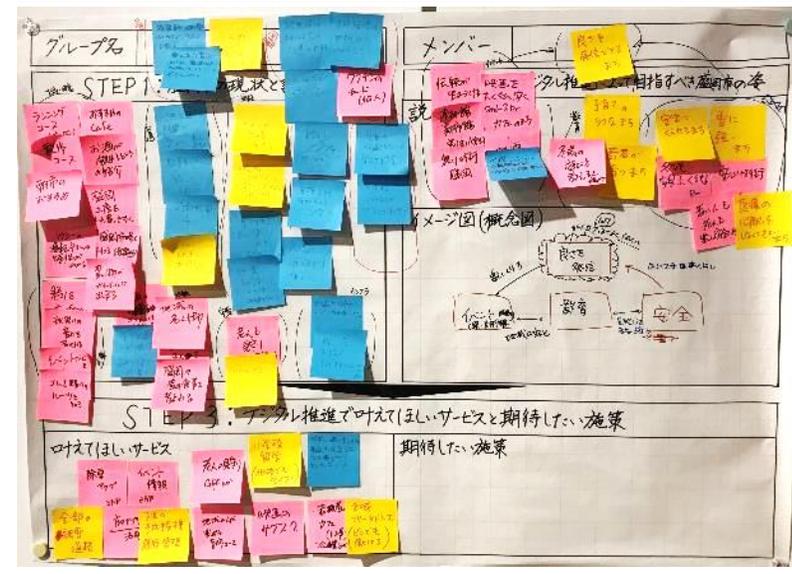
グループ1



グループ2



グループ3

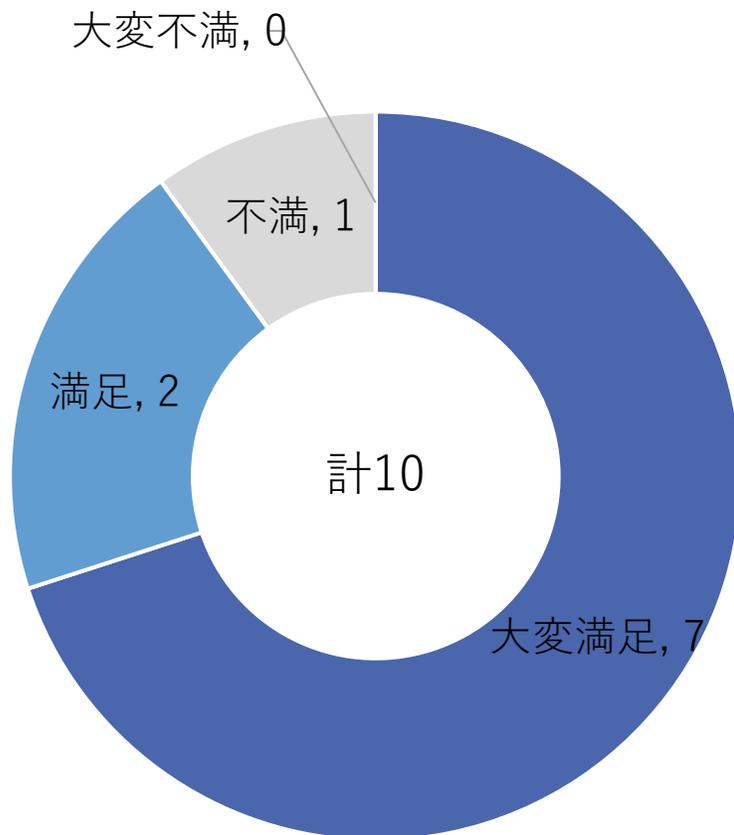


WSの様子



【参考】実施後のアンケート結果（1/2）

WS参加の満足度

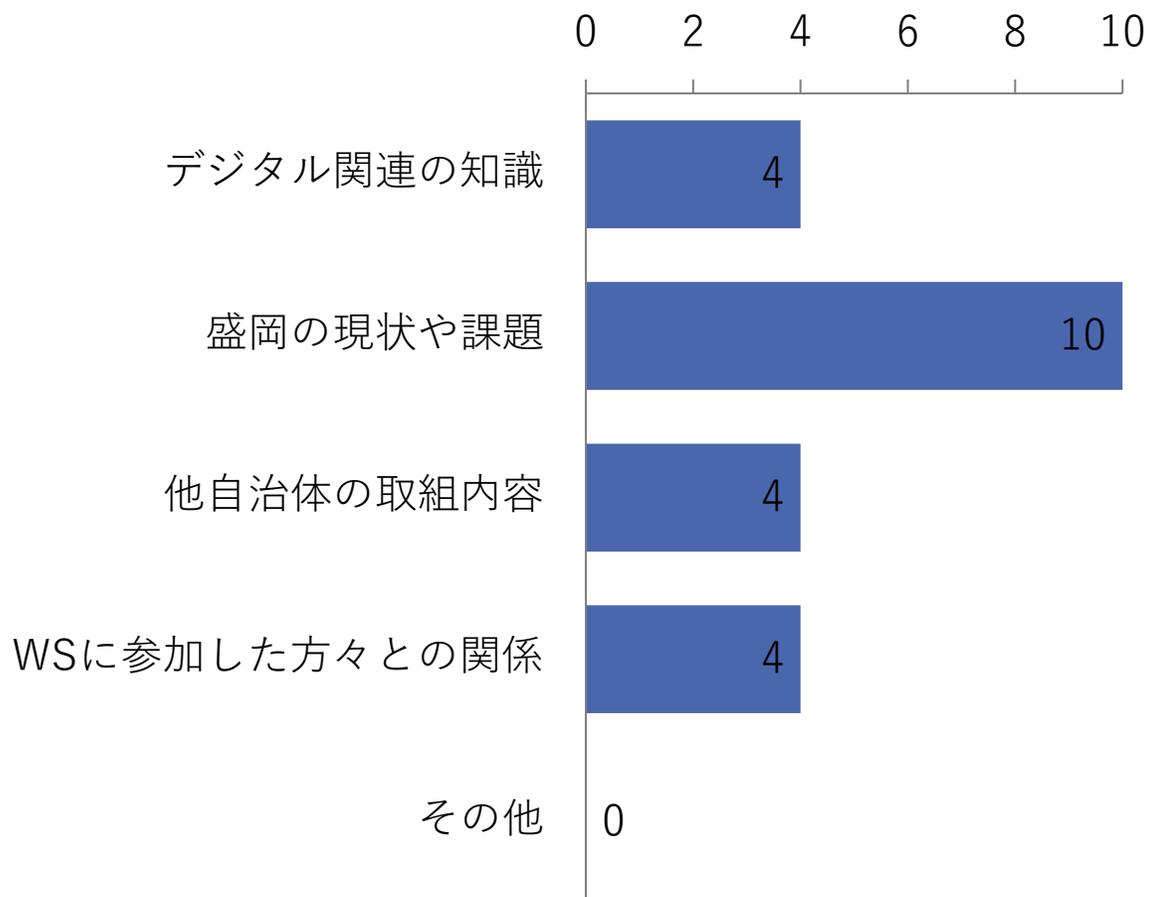


回答（満足度）の理由

- いろいろな世代の考えを聞いた
- 多様な意見交換が出来て楽しかったです。
- 色んな人の意見を聞いて楽しかったから。
- 充実した意見が沢山出て来たから。
- 運営陣の方々のサポートや事例の紹介を踏まえて、良い発表をすることができた。今後の進路について考える機会にもなった。
- 議題が漠然としすぎて、まとまりにくい気がしました。
- 盛岡市の現状など、様々なことを知れた。
- 世代や性別で基本の意見は一緒だったが、掘り下げた部分に違いがあり、その話しを聞くことができ大変勉強になりました。今回短い時間でしたがもっと話してみたいと思いました。
- 聞きたいことを言えました。短い時間で結論に達したのでおもしろかったです
- グループの方々も素晴らしく楽しい時間でした。また、機会があれば、参加したいです。

【参考】実施後のアンケート結果（2/2）

WSに参加して得られたもの



盛岡のデジタル推進への要望・意見

- 死ぬ気で頑張ってもらいたい
- この様な形で、引き続き市民参加による推進をよろしくお願いします。
- デジタルが推進していくことは大切ですが、デジタルに疎いご年配の方にも優しい街づくりをして欲しいです。
- 今日のWSを元に、進めていって欲しいです。
- また参加して、色々な人の考え方を聞いて楽しかったです。ありがとうございました。
- やはり電車やバスの時刻表の電子パネル化
- 是非、役場でも書類関係の手続きはデジタル化、簡素化して頂き、住民のQOLを高めて欲しいと思います。
- このような機会を増やして欲しい。今日の成果をバックして欲しい

※ 複数回答可の設問

(2) 市民／企業向けアンケート実施概要

市民／企業向けアンケート実施概要

- 11月下旬より、盛岡市民および盛岡市内企業に向けたデジタル化推進に対するアンケート調査を実施します
- 本アンケート調査にて、地域課題の洗い出しとデジタル化推進に対する期待感や不安感を伺い、戦略にFBする予定です

実施期間

2022年11月下旬～
(約3週間程度を予定)

実施方法

- グーグルフォームにて実施

対象者

- 市民向けアンケート：盛岡市民
- 企業向けアンケート：盛岡市内の企業（市内に本社がある、支社もOK、企業規模に制限は設けない）

アンケート 実施目的

- 実市民の声として、地域課題の洗い出し（特にデジタル化推進にて課題解決が期待できるもの）やデジタル推進に対する期待感／不安感を伺い、戦略策定にフィードバックする

留意点

- 地域課題の解消や成長のために前向きな意見をもらえるようにしたい
- 簡単な選択式（全体的な傾向把握）と記述式（具体的な課題や期待事項等の把握）の併用とする
- 回答率を向上させるため、10～20問程度のアンケートボリュームとする

市民向けアンケート内容

- 盛岡市民が望むデジタル化推進戦略を立案するため、下記5つの項目にて計10のアンケートを実施します
- 市民のデジタル利用状況だけでなく、日々の生活におけるデジタル化による課題解決期待や、デジタル化に対する期待や不安などの生の声を伺う想定

主なアンケート内容

① デジタル関連設備等の利用状況

- 市民が日常的に使用している情報通信機器やSNSなど
- 盛岡市で提供しているデジタルサービスの認知度

② 盛岡の“らしさ”や“良さ”

- 盛岡市民が感じる“盛岡らしさ”や“盛岡の良さ”

③ デジタル化による課題解決

- 日々の生活での困り事に対し、デジタル化推進によって解決が期待できるか

④ デジタル化への期待／不安

- デジタル化推進に対して期待すること
- デジタル化推進することで不安に思うこと

⑤ デジタル化促進の取組み優先度

- 盛岡市が実施するデジタル化推進の取組みとして力を入れてほしい分野

企業向けアンケート内容

- 盛岡市内企業が望むデジタル化推進戦略を立案するため、下記5つの項目にて計19のアンケートを実施します
- 社内におけるデジタル化の必要性や推進状況（または推進していない理由）を伺い、デジタル化推進に向けた企業としての課題や期待について、生の声を伺う想定

主なアンケート内容

① デジタル化推進の必要性

- 会社としてのデジタル化推進の必要性とその理由

② デジタル化推進状況

- 社内のデジタル化推進状況の程度や実施している施策内容
- デジタル化推進を実施した結果（プラス影響、マイナス影響）

③ デジタル化推進していない理由

- 社内のデジタル化推進を実施していない理由

④ デジタル化推進に向けた課題/期待

- デジタル化推進に向けた課題
- デジタル化推進で期待する内容、行政に期待したいこと

⑤ デジタル化促進の取組み優先度

- 盛岡市が実施するデジタル化推進の取組みとして力を入れてほしい分野

【参考】アンケート調査イメージ

市民向けアンケート



【盛岡市】地域のデジタル化推進に向けた市民アンケート

アンケートへのご協力ありがとうございます

 takayuki.suzuki@ignitionpoint-inc.com (共有なし)
アカウントを切り替える 

*必須

性別をお答えください*

選択 

年齢をお答えください*

選択 

職業をお答えください*

選択 

企業向けアンケート



【盛岡市】地域のデジタル化推進に向けた企業アンケート

アンケートにご協力いただきありがとうございます

 takayuki.suzuki@ignitionpoint-inc.com (共有なし)
アカウントを切り替える 

*必須

貴社の業種をお答えください*

- 農林水産業
- 鉱業
- 建設業
- 製造業
- 電気・ガス業
- 運輸業
- 通信業
- 卸売・小売業飲食業
- 金融・保険業
- 不動産業
- サービス業
- その他: _____

4. 庁内（組織・職員）の意識・意見の取込み

(1) 庁内アンケートの結果報告

アンケート対象：盛岡市役所全課

実施期間：2022年9月26日～10月13日

※ アンケート実施結果のまとめについては、
別紙「【資料03】盛岡市_庁内アンケートまとめ」を参照ください

庁内アンケート実施結果：サマリー

- 対市民や対企業向けより、市役所内での定常業務における逼迫状況に対する困りごとが非常に多くあげられている状況
- 地域の市民からは申請デジタル化や決済、メール連絡などの民間企業でデジタル活用が進んでいる部分が多い
- デジタル化の必要性について、約7割の職員が「ある」と回答している一方、自身のデジタルリテラシーに不安をもつ

現状での お困りごと

- 約8割以上が何らかの”困りごと”を感じている中、約半数が「**庁内における事務作業**」に困りごとを感じている。
- 現状の”困りごと”がデジタルで『**解決できない**』と考えている割合はごく少数。
- 『**解決できる**』と回答した方は**具体的な方法までイメージできているが、定常業務の逼迫により庁内職員関与が難しいとの課題**もあげられている。

盛岡の良さ・長所

- **盛岡市の良さ・長所として“人間関係”や“人柄”といった部分を記載する回答が非常に多く、市民/企業も「協力的」**であることが良さ・長所とする回答も多くみられた。
- 具体的な解決イメージをもって「**伸ばすことができる**」と回答された方が多く散見された一方で、人とのつながりなどアナログ的な部分の影響を懸念する回答も散見された。

地域から 寄せられている要望

- 回答者の約3割が「**過去にデジタル関連の問い合わせを受けたことがある**」と答えている
- 内容として、申請のデジタル化やキャッシュレス決済の導入、メールなどによる連絡といった**民間企業でデジタル化が進んでいる部分への要望が多く**散見された

庁内における デジタル活用状況

- 様々な理由から**デジタル化の必要性は「ある」と考えている回答者が約7割と多数**を占める
- デジタルリテラシーが高いと評価される方が庁内にいる一方、そうでないと思われる方とのレベル差や感度差が高いと回答されている方が多い（自身のデジタルリテラシーに自信がない方が約半数）

デジタル活用 推進における課題

- **デジタル化推進の関連業務における経験を有している職員は約2割と少数**となっており、庁内におけるデジタル推進機運が高まっていない理由の1つとも考えられる
- 地域のデジタル化推進に対して「**不安に思う**」割合が「**不安に思わない**」の約1.7倍と不安が大きい

(2) 庁内ヒアリングの結果報告

アンケート対象：計7分野（16担当課）

実施期間：2022年10月20日～21日、11月22日

※ ヒアリング実施結果のまとめについては、
別紙「【資料04】盛岡市_庁内ヒアリングまとめ」を参照ください

庁内ヒアリング実施結果：サマリー

- デジタル活用による市民・企業のQOL向上への意識は高いものの、日常業務（アナログな事務作業）で逼迫している傾向が庁内アンケート同様に多くみられた
- デジタル推進に向けては、“急進的”ではなく“段階的”な推進を希望する傾向がある

	期待感	課題感
現状	<ul style="list-style-type: none"> • 自治体DX推進やGIGAスクール等の戦略等に携わる部署では、<u>実際にデジタル活用事業を推進しているところがいくつか</u>みられた（農政課では、顕著な効果が確認されている） • 全体として顕在化している課題については、他自治体のデジタル活用事例を参考に解消、解決可能と判断できるものがみられた 	<ul style="list-style-type: none"> • デジタル活用による市民生活のさらなる向上に対する意識はある • 一方、<u>日常業務（多数の事務作業）に追われている等の理由より、対市民・企業向けへの意識よりも庁内業務改善が目下、デジタル活用により解決したい課題として認識が大きい傾向</u>がみられた
将来	<ul style="list-style-type: none"> • 市民や庁内職員のデジタル活用に対する関心やリテラシーの度合いが様々 • 多くの市民がデジタル活用による恩恵を受けられる状態を目指すためにも、<u>急進的ではなく段階的なデジタル推進を希望する傾向</u>がみられた 	<ul style="list-style-type: none"> • <u>「デジタル活用の方向性の明確化」、「関係部署間の円滑な連携方法」、「予算措置」の3点がデジタル活用の推進における主要なボトルネック</u>となっていることが推察される

5. 【参考】岩手県DX推進計画（素案）

岩手県DX推進計画(素案)の概要

はじめに

(1) 背景

- ・人口減少や少子高齢化、被災地の復興などの地域課題
- ・行政、商工業、観光産業、農林水産業、建設業などの産業における生産性の向上や子育て、教育、医療、介護分野等を含むあらゆる分野で改革・変革が不可避

(2) 岩手県の現状・課題

- ・情報通信基盤の整備は一定程度進展
- ・デジタル化の取組が進んでいない県内自治体の支援が必要
- ・産業分野ではICT利活用の取組は進展しているが、デジタル人材が不足
- ・行政手続・医療・教育等の分野においては、取組の強化が必要

計画の位置付け

・いわて県民計画(2019~2028)の個別計画に位置付け

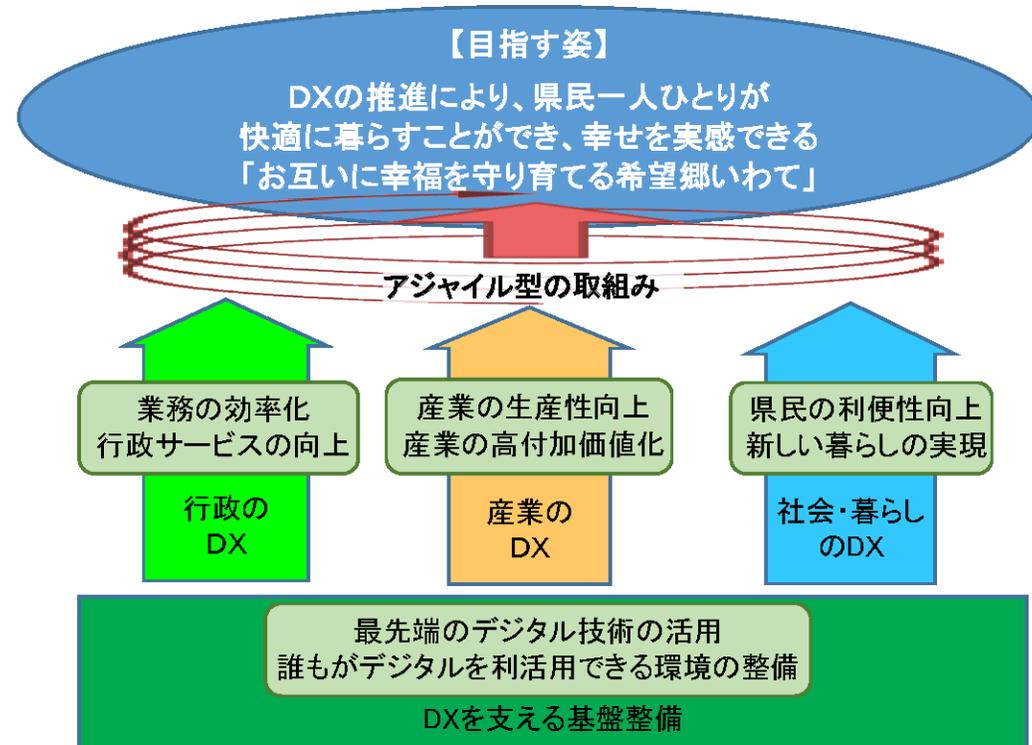
年度	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028
2019~2028 いわて県民計画	長期ビジョン									
	第1期アクションプラン			第2期アクションプラン				第3期アクションプラン		
	岩手県ICT利活用推進計画			岩手県DX推進計画				次期計画		

- ・官民データ活用推進基本法第9条に基づく「官民データ活用推進計画」に位置付け

計画の基本方針と具体的な取組

(1) 基本方針

4つの取組方針「行政のDX」、「産業のDX」、「社会・暮らしのDX」、「DXを支える基盤整備」について、出来ることから直ぐに取組をはじめ、刻々と変化する環境の中で生じる課題にスピーディに、柔軟に見直し・改善をはかり、品質を高めるアジャイル型で取組を推進

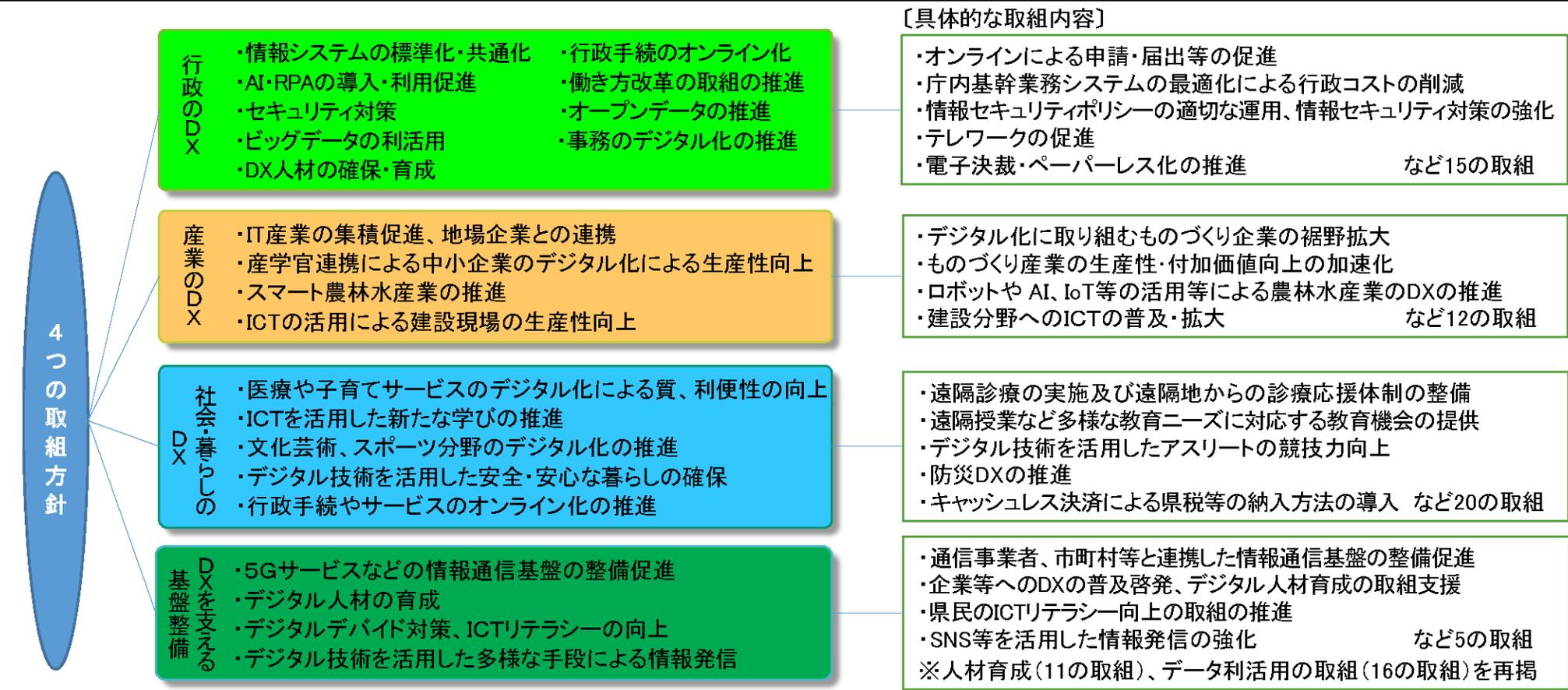


(2) 推進体制と進捗管理

- ・岩手県DX推進本部のもと、全庁一体となり取組を推進
- ・有識者会議の意見・助言を受けながら、いわてDX推進連携会議や国、市町村、大学、事業者等と連携しながらオールいわてでDXを推進
- ・社会情勢の変化やデジタル技術の進展、国の動向等を踏まえ、各取組の指標の達成状況を評価し、柔軟に計画を見直し

計画の基本方針と具体的な取組

(3) 具体的な取組内容



【官民データ活用推進】

「官民データ活用推進計画」の施策の柱として5つの取組を位置付け、行政や民間の保有するデータ活用の取組を推進

- (1) オンライン化原則 オンラインによる申請・届出等の促進 など
- (2) オープンデータの推進 県が保有する公共データの公開の拡充、利活用促進 など
- (3) マイナンバーカードの普及・活用 マイナンバーカードを活用した新たなサービスの提供支援 など
- (4) デジタルデバйд対策等 情報通信インフラの整備促進、デジタル人材の育成・デジタル活用支援 など
- (5) 標準化、デジタル化、システム改革、BPR ... 庁内システムのクラウド化の推進、基幹業務システムの最適化 など

APPENDIX

戦略策定手順

- 現段階で“骨子策定”は、第1回会議のご指摘事項を踏まえタスク完了となっています。次工程（アンケート・ヒアリングおよび戦略（詳細）策定・事業企画立案）は、今回会議にてご説明した部分を踏まえ、現在、タスク実施中です。

骨子策定

- 事前調査結果（盛岡市現況や他自治体事例など）を元に、事務局にて戦略骨子（案）を策定
- 庁内関係者との協議等を踏まえ、戦略骨子を策定する

• タスク完了

アンケート ヒアリング

- 現場課題や既存の推進事例等の洗い出しを目的とした庁内職員向けアンケートおよび庁内ヒアリングの実施
- 市民/企業によるデジタル活用要望や地域のデジタル化に向けた課題の洗い出しを目的とした市民/企業向けヒアリングの実施

• 一部タスク完了
• 他タスクは、現在実施中

戦略（詳細）策定 事業企画立案

- 現場および市民/企業の意見・要望を踏まえ、盛岡市の課題解決と更なる価値向上に向けた具体的な行動指針および施策を策定する
- 次年度以降にデジ田交付金へ申請し、事業化を目指す事業企画を立案する

完成

- 策定した行動指針・施策やデジ田交付金に申請予定の事業の取組み優先順位付けや評価測定基準などを策定する
- 庁内関係部署確認会議や外部有識者会議での承認を経て、戦略完成へ

• 次回会議までに完了想定

戦略策定スケジュール案

- 外部有識者会議は計3回の実施を想定しています。また、外部有識者会議の事前に盛岡市にて庁内関係部署確認会議を実施し、現場意見などを考慮した戦略案を策定していきます。

実施項目	2021年			2022年		
	10月	11月	12月	1月	2月	3月
戦略策定に向けた調査分析	継続して各種調査 (盛岡市状況、他自治体事例、デジ田状況等)					
庁内関係部署確認会議	第1回	第2回	本日		第3回	
外部有識者会議	第1回		第2回		第3回	
戦略策定作業 (リバイズ作業)		リバイズ		リバイズ		戦略完成
アンケート/ヒアリング	庁内アンケート	庁内ヒアリング	市民・企業ヒアリング			
事業企画立案		次年度以降にデジ田交付金へ申請する事業企画を立案				